

# 有限会社恒春社印刷所

## オフセット印刷業者としての生き残りを図り

### H・UV搭載リスロンA37とK・サブライインキを導入。



代表取締役  
鈴木 祐司 氏

「リスロンA37は、使い勝手がよく、導入1年で印刷のメイン機になっています」

企画・デザインから印刷・断裁・製本加工まで、社内一貫処理を特長とし、カタログ、ポスター、パンフレット、広告チラシ、出版物、雑誌、名簿、論文集などあらゆる印刷物を手掛けている有限会社恒春社印刷所。同社の強みである短納期への対応力をさらに高めるため、昨年2月に保有していたオフセット機2台に替え、H・UV搭載リスロンA37（A全判4色オフセット枚葉印刷機）を導入した。導入の背景と効果、併せて使用を始めたK・サブライインキアップについて、鈴木祐司社長、DTP・デザイン課の杉浦啓介氏、製造の松山大地氏にお聞きした。

### 大判もので勝負するため リスロンA37を導入

（恒春社印刷所には、東三河の各市町村や各種団体、地元企業などからあらゆる印刷物の依頼が舞い込む。「短納期の依頼も多く、5年ほど前から対応力を高めるために、UV機を新たに導入することを考えていました。今の時代、小ロット需要に対応するために、菊半の機械も必要ですが、オフセット印刷業者としては、大判ものが生き残りの鍵。ページものやポスターなど、大判機で刷る必要がある仕事を

取っ払いこうと考えていました」と語る鈴木社長は、保有していたオフセット機2台を出して、H・UV搭載リスロンA37（A全判4色オフセット枚葉印刷機）を導入する決断をした。

「A全のH・UV搭載リスロンA37にしたのは、菊全とA全の刷版などのコスト差で、H・UVシステムのコストを吸収できると思ったからです。また、納期を急ぐ案件も多く、データが入ってから翌日納品という案件も結構あります。印刷当日に加工の工程に入らなければならないことを踏まえ、H・UVが適していました」

さらに恒春社印刷所では、A4が8丁付く機械を導入することで、効率よく案件を回すことができる状況にあったことも、決断を揺るぎないものにした。「リスロンA37は、1台で、これまでの菊全2色機と菊半4色機を併せた性能があり、当社の抱える案件でその能力を生かせる可能性が高く、予定のスペースにも収まり、工場も広く使えるなどの効果を期待しました」

### 「信頼できる機械」と オペレーターも高評価

リスロンA37の初代オペレーター

には、DTP・デザイン課の杉浦氏が任命された。杉浦氏はデザイナーであり、印刷機の操作経験は皆無だった。そして現在は、杉浦氏から新入社員の松山氏に引き継がれている。松山氏は、「杉浦さんの後ろに付いて回り、指導を受けながら操作を覚えていきました。1カ月ほど前から任せてもらっており、社長や先輩に刷本のチェックを受けた後、出荷するという流れになっています。リスロンA37では、ユボの印刷もしています」と、自身の成長に自信をのぞかせる。また、先輩の杉浦氏も「私もリスロンA37が初めての印刷機でしたが、色を自動で読み、合わせてくれるのがよかったです。リスロンA37は、品質を一定に保てる、信頼できる機械。松山君に、安心して任せられます」と、自信を後押しした。

### H・UVはインキ消費量が 少なくコストは上がらない

現在、同社では、リスロンA37をカラーのメイン機、以前から保有していた菊全4色反転機を特色機として使い分けている。鈴木社長は、「リスロンA37は、版替えや色合わせが速い。また、これまでの菊半4色と比べると、そもそも倍の生産力があります。さらに、印刷準備時間が短いため、カラーのロットの少ないものほど効率アップが図れます」と、導入効果を実感している。

「スピードの追求」で

リスロンA37の導入によって、短納期の対応力をアップさせた後、鈴木社長は、今後の展望として「さらにスピードの追求」を掲げる。

「機械は、マニュアルに書いてある通り、あるいはメーカーの言う通りに使うのが一番良いと考えています。最初から独自のやり方をやろうとすると、うまくいかないものです。資材についても、同じKOMORIでそろえるのが間違いありません。機械の操作もそろえる資材も、メーカーの提案通りに実直にやることにしています」

さらに、H・UVシステム導入についてのコスト面は「吸収できる」と前述していたが、K・サブライインキについてはどのように捉えているのか。

「以前は菊全判で刷っていたカラーもののほとんどを、リスロンA37+K・サブライインキで刷っていますが、インキの消費量は予想以上に減りました。結果、H・UVインキ採用によるコストアップを最小限に抑えました」

この短納期の対応力を前面に出し、全国から仕事が取れるような体制を整えて、オフセット印刷業者として紙加工業者として存在感を高めていく意向だ。



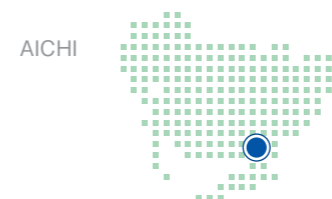
製造  
松山 大地 氏  
「操作などで分からないことや困ったことは、KOMORIに電話します。すぐに答えてくれ、日々、助かっています」



DTP・デザイン課  
杉浦 啓介 氏  
「初めての機械でしたが、版交換の全自動も非常に便利。油性とのつや感の違いも、気になりません」



「顧客から、リスロンA37のH-UVで刷ってほしいという依頼もあります。特に断裁面にインキを残したくない案件での指定が多いです」と鈴木社長。H-UVインキをはじめとした資材のK・サブライ品は、棚に整頓され、しっかり管理されている。



本社 / 愛知県豊橋市下五井町沖田157-1  
https://www.chikyu.com/kohshun/  
TEL / 0532-55-7800

